

将来ビジョン・岸和田

“新・岸和田”づくりの総合計画
基本構想
概要版

2023▶2034

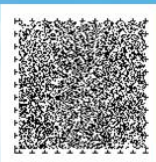
新しい総合計画について、
ぼくと一緒に見ていこう！



ちきりくん



 KISHIWADA CITY



Uni-Voice

基本理念

基本理念は、
まちづくりを考える上での、
基本的な考え方だよ。



「笑顔にあふれ、 誰もが“幸せ”を感じる 都市」の実現

市制施行100周年を経て、次の“新・岸和田”づくりをめざして、安心していつまでも住み続けることができる、個性豊かで魅力的なまちであるために、「笑顔にあふれ、誰もが“幸せ”を感じる都市」の実現を基本理念として、総合計画に描いた将来像に向かってまちづくりを進めていきます。

総合計画 将来ビジョン・岸和田 とは

総合計画「将来ビジョン・岸和田」は、市の最上位計画であり、まちづくりの指針となるもので、まちの将来像などを明らかにしています。

なお、まちづくりは、市民・事業者・行政など、みんなが協力しあって進める必要があります。考え方を共有し、みんなの指針となるのがこの総合計画です。

総合計画の構成・期間

総合計画は、
岸和田をどんな“まち”にしたいかを
書いている計画だよ！



総合計画は

- ・ 12年間の**基本構想**
- ・ 4年間の**基本計画** で構成

基本計画は4年ごとに、
社会経済状況などを踏まえて
見直します。

基本構想は長期的な方針
(12年後にめざす姿)を、
基本計画は中期的な方針
(次の4年間で進めていくこと)
を示しているよ。

岸和田市の現状



いまの岸和田の状況を知ることが大切だね。人口以外については、冊子に詳しく書いているよ！

人口の動向

- ◆ 近年は社会減(転出数が転入数を上回っている状態)が続いており、大阪府全体と比較すると、**30歳前後の子育て世代の転出傾向**が顕著
- ◆ 2020年度に実施した市民アンケート調査では、全体の約8割が「**住み続けたい**」としている一方、約2割弱が「**住み続けたくない**」という結果

理由は「まちのイメージが悪い」「交通の便が良くない」「子どもの教育環境が良くない」「愛着がない」「買い物や外食が不便」の順に多い

子育て世代を中心とした人々に対する働きかけや、生活利便性の向上などにより、**住み続けたいと思う人がさらに増えるまち**になっていくことが重要

社会状況の変化

人口減少・超高齢社会

人口減少・超高齢社会に対応した「選択と集中」やダウンサイジングなど、量より質の向上が必要

SDGs (持続可能性・多様性)

総合計画の推進においても、人々の多様性の尊重、地域全体の持続可能性を意識したまちづくりが必要

地球環境問題

市民・事業者・行政などが、それぞれの役割に基づいてゼロカーボンをめざす取組を進めることが必要

危機管理

自然災害や市民生活に重大な影響を及ぼす新たな危機への対応能力を高めることが必要

革新的技術

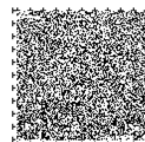
革新的技術を効果的に活用する一方、新たな技術を活用できない人を取り残さないよう対策が必要

財政状況

ICT技術・民間活力・広域連携等の活用による行政の効率化など、引き続き、行財政の構造改革が必要



あっという間に大きく社会が変わる時代だから、いつもアンテナを張っておかないといけないね。



Uni-Voice

将来像

個性きらめき

魅力あふれる

ホッとなまち 岸和田

私たちを取り巻く社会状況の変化に対応しつつ、岸和田の魅力を活用・発展させながらまちづくりを進めていくため、基本理念のもと、この12年間で、みんなでめざすまちの将来像を「個性きらめき 魅力あふれる ホッとなまち 岸和田」とします。

個性きらめき

人情味ある市民が多く、
岸和田への愛着心やプライドが
活かされている

将来像に
込めた思い

魅力あふれる

海から山までの豊かな自然と
古くからの歴史・文化、
農業・漁業など、
魅力ある資源が活かされている

ホッとなまち

人にやさしく、
いざというときにつながれる
熱い心や、注目される
熱い取組や場所があり（ホット）、
住んでいても訪れても
安心（ほっと）できる
場所となっている

基本目標と“3つの視点”



基本目標は、
将来像を実現するための
テーマ別の目標だよ。

岸和田を強くする“3つの視点”

多様性を尊重しあう
岸和田の
絆の発展・活用

海から山までの
多様な
地域資源の活用

時代を先取り・
リードする
先端技術の活用

岸和田の次世代を育むまち

健康で自分らしく生きられるまち

安全で安心して暮らせるまち

人と自然が共生した住みよいまち

にぎわいと活力を創造するまち

基本目標

みんなで作る
持続可能なまち

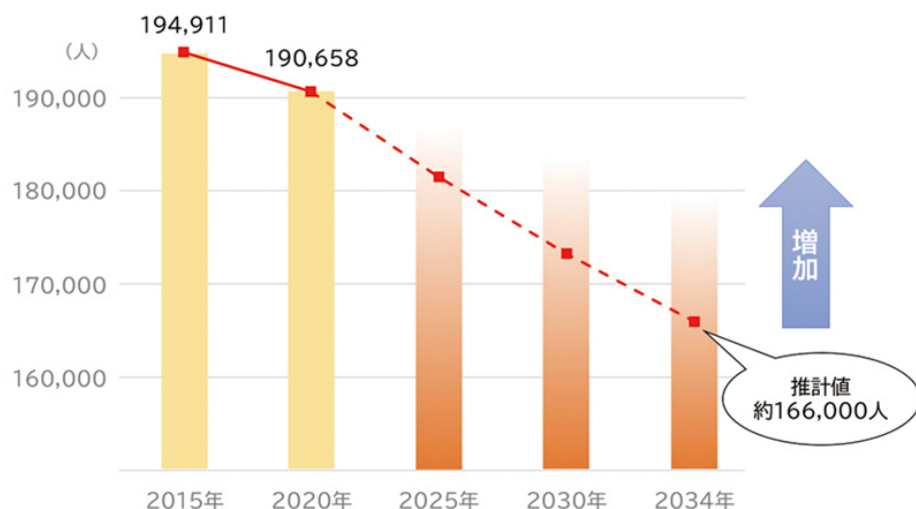


岸和田を強くする“3つの視点”は、
まちづくりを行う上で意識・活用すべき
大切なことだよ。



将来人口の方向性

みんなが豊かで幸せに暮らせる
まちづくりをすることで、
人口増加につなげることが大事だよ！



子育て環境や住環境の充実、産業の振興など、様々な施策を実施することにより、子育て世代の転出を抑制し、転入の増加につなげます。

その結果、人口減少のスピードが緩やかになり、推計値よりも人口が増加することをめざします。

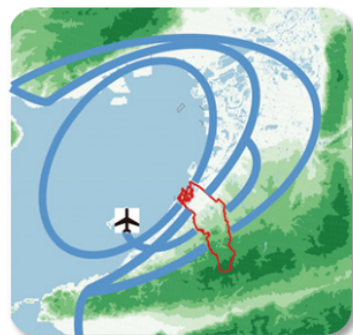
都市構造

都市構造は、土地の使い方(土地利用)や、人・モノが集う拠点づくりの方向性など、岸和田のまちの骨格を示すものだよ。



将来のまちの活力や生活利便性を維持するためには、人・物・情報の流れを活発にし、産業をはじめとする様々な交流と活動の活性化を推進することが必要です。

そこで、市内の各地域間はもちろんのこと、周辺都市、関西圏を含めた広域的な都市間連携を強化し、様々な交流と活動の活性化を支える「**広域連携型都市構造**」の実現をめざします。



土地利用の基本方針

- 1 山地・農地・市街地のバランスを保つ
- 2 地域資源・コミュニティのまともに配慮
- 3 自然的条件に留意し災害に対応
- 4 市街地の再編・整備による産業振興と居住環境の調和
- 5 持続可能な交通ネットワークと都市的機能を備えた拠点形成

土地はまちの限られた資源であり、その利用のあり方は、市の発展や市民生活と密接に結びついています。

このため、社会情勢の変化や本市の特性を踏まえつつ、左記のとおり**計画的な土地利用**を進めます。

区域・軸・拠点

区域別の土地利用方針

地形によって特徴づけられた4つの区域ごとの土地利用方針を設定します。(詳しい方針の内容については、本編をご覧ください。)

臨海区域

おおむね海岸線～

大阪臨海線

都市区域

おおむね大阪臨海線～

泉州山手線

田園区域

おおむね泉州山手線～

阪和自動車道

山間区域

おおむね阪和自動車道～

府県境

軸の設定

泉州地域や大阪・関西圏を結ぶ「**広域連携軸**」と、市域内を結ぶ「**地域連携軸**」を設定します。

これらにより、市域内及び市域を越えた交流・活動の発展を推進します。

拠点の設定 様々な分野や主体の連携により、交通結節点周辺において**地域特性を活かした拠点形成**を推進します。

工業・流通拠点

広域連携軸近辺、海辺の立地条件を活かし、工業・流通機能の集積を促進します。

地域拠点

多様な機能が集積し、人が集い、交流する地域拠点の形成を促進します。

産業拠点

木材港地区は、広域連携軸や市街地との近接性を活かし、先端産業・新産業の創出をめざします。

生活拠点

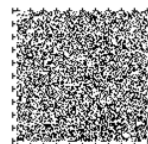
日常生活を支える機能が集積し、安全で利便性の高い生活拠点の形成を促進します。

都市拠点

様々な資源や機能が相互に活性化し、市内外から人が集い、憩い、交流する都市拠点の形成を促進します。

広域交流拠点

泉州山手線の延伸に応じて、地域特性を活かした人・物・情報が行き交う広域交流拠点の形成を促進します。



Uni-Voice

施策体系図



この基本構想は、まちづくりの大きな方向性を示すものだよ。
様々な分野の施策をどう進めるか、どの施策を重点的に
進めていくかについては基本計画を、さらに毎年度の具体的な
市の事業・取組は市ホームページでそれぞれ確認してね！
(基本計画は、市ホームページで公開しています。)

